



一中だより

学校教育目標
自主・練磨・敬愛

目指す学校像 「笑顔と活力あふれる学校」 ～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

「躍動の年」

校長 岡島 一恵

3学期のスタートにいつも思うことですが、2学期とはちょっと違った緊張感を感じます。それは、やはり、年が明けて新たな年のスタートであるのと同時に、今年度を締めくくる大切なまとめの学期のスタートだからなのだと思います。年末年始には静まりかえっていた校舎に生徒たちの元気な声が聞こえ、学校に活気が戻ってきました。大切な3学期、昨日無事に始業式を迎えることができたこと、保護者や地域の皆様に深く感謝申し上げます。今学期も教職員一同、協働の精神により全力で教育活動に臨む所存です。どうぞ、今学期もご理解・ご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

三学期式の言葉

今年の干支は丙午（ひのえうま）。干支とは、十干十二支の略です。ちょっと説明します。十干とは古代中国で生まれた陰陽五行説（陰陽説：万物は反する陰と陽の2つの気で成り立っている。五行説：万物は木、火、土、金、水の五元素で成り立っている）から発生した甲、乙、丙、丁等、十の要素（記号）で成り立っていて、その意味を樹木、草花、大河、海など、自然に関するもので表現されたりします。今年、「丙」。丙の意味は、「太陽」です。十二支とは、こちらも元は中国から日本へ伝わった思想の一つで、周知のとおり、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥の12種類の生き物（漢字）のことを指します。かつては時刻や方角を表すことにも利用されていましたが、現在は、主に年を表す際に使われています。今年、「午」年。躍動、成功、前進など、エネルギーに満ちた前向きな意味をもちます。これらから、太陽を表す「丙」と躍動や前進を象徴する「午」を組み合わせた「丙午」は、力強いエネルギーと情熱が高まり、物事が大きく、発展、成長する年とも言われているそうです。本校の美術・文化総合部が作成し、学区内の八幡宮に奉納された巨大絵馬にも実は今年の十二支である白馬が描かれています。奉納の際に宮司さんから、馬には神が宿るとされ、特に白馬は神と人間を結ぶ使者と言われているという様なお話をいただきました。情熱と発展、そして、神様の使者の「丙午」年。前向きの強いベクトルを感じ、目標達成に向け頑張る気持ちが沸々と湧いてきます。さあ、今日から3学期が始まります。3学期は1年間のまとめであると共に、4月から始まる来年度に向けて準備する学期として、来年度の0学期とも言われています。そして、0学期が終わるとそれぞれの学年が次の学年に進級します。1年生は、2年生になり、下の学年が入ってきて先輩になります。2年生は3年生からバトンを引き継いでいよいよ川越第一中の最高学年になります。そして、3年生、川越第一中学校を卒業して、



義務教育が終了し、それぞれの道へと進みます。3学期は、そんな節目となる大切な学期です。今年度の集大成として、そして、来年度への希望の架け橋となる学期となるよう、今まで頑張ってきたことを相変わらず継続し、更に高みを目指して、自分を磨き、学級、学年の仲間と離れがたい温かい優しい人間関係を大切にしたい一中の「自主・練磨・敬愛」の姿を今学期も期待し、3学期始業式の言葉とします。

二学期終業式の言葉 生徒感想

私は今、「勉強をする」ことがとてもつらいです。

どこを進んでも終わりの見えない迷路のようで、暗闇を手探りで彷徨っているときのような、途方もない不安に襲われています。「何をするのが正解なのか」考えることも、未来の自分の姿を想像することも辛く、両親や周囲の人たちに期待してもらっているのにも関わらず八つ当たりしてしまったり、自分の不安をわかってほしいと嘆いてしまうこともあります。受験なんてなくなってしまえばいい、なんて考えることも多いです。ですが、今日の校長先生のお話の中にあつた、「苦しいことも、辛いことも全て未来のあなたの力になっている」という言葉で目が覚めたような気持ちになりました。

「受験勉強」は誰のためでもなく、自分のためにしているのです。私はそれを忘れてしまっていたのかもしれない。中学3年生になったばかりの頃の、「将来、自分のなりたい高校生になるために頑張るぞ」と意気込んだ気持ちを忘れずに、今の辛く、苦しい勉強もすべて「自分の力」となることを信じて、冬休みも継続して勉強を頑張りたいと思いました。

晴れの日や雨の日があつて花が咲くように、悲しみや苦しみがあつて私がある、と聞いて、感動しました。何かを継続して取り組むことはあまり得意ではないのですが、大変なことも成長の糧にできると思つて、これからも頑張っていきたいと思えました。来年には受験もあるので勉強に意欲的に取り組んでいきたいです。

校長先生のお話を聞いて、星野さんのカレンダーにかいてあつたと言う「春が過ぎ、冬が来る」と言ったような言葉の綴が、今回のお話で印象に残りました。季節や日々の移り変わりが、私達に思い出等々を残していくように、その中で積み重ねていった過程も、記憶として残り、また次に巡って行く。当たり前すぎるあまり気にもとめないことを言葉にした星野さんも含め、私は素敵だと思いました。

私は、星野富弘さんの作品についての話を聞いて、良い出来事も悪い出来事も自分の一部になっていくんだなと思いました。私の2学期は、特に合唱祭に積極的に取り組めてクラスの心を一つにすることができたので良かったです。なかなかクラスがまとまらず大変なこともあつたけれど、みんなで力を合わせて乗り越えることができました。これからも大変なことはあると思うけれど、クラスや学年で助け合っていきたいです。

星野富弘さんの話の事について、もっと知りたいと思つたので調べてみると、星野さんの思いは、「悲しみを否定すべきものとしてではなく、人を成長させ、人生に深みを与える大切な経験として伝えたい」とでできました。このことから私は、悲しみは人生においても大切なことなのではないかと思つました。ポジティブなことだけを考えるのではなく、ネガティブなことも含めて受け入れられたらいいなと思つました。実際には受験ということは私にとってはネガティブなことかもしれないけれど、この1年で人生で一番勉強したと思うので、ラストスパート頑張りたいと思います。

また、いつもそばにいる助けてくれるのが当たり前になつてしまつていた先生方にはしっかりと感謝を伝えたいです。

社会の授業で川越市をよりよくするための政策を全員で考えたように政治にも全員が参加することが大切なのだなと思つました。星野富弘さんの「悲しみも苦しみもあつて私か私になつてゆく」という詩が印象に残りました。多分これから辛くて大変なことが多くあると思うけどそれら全ての経験で私になつていくのだろうなと思つました。反対に今の自分があるのはその経験のおかげなのだろうなと思つました。冬休みは勉強で忙しいと思うけどその経験を生かせる場がこれからできると思うので頑張っていきたいです。



三
期

二
夕



一
夕

